神戸新聞 2015年05月12日 火曜日 面名 夕二社 夕4 8ページ

ラット 溺れた仲間救助

他者への「共感」霊長類以外にも？

ネズミの一種・ラットが、溺れる仲間の危機を感じ助ける行動を起こすことを、関西学院大学文学部（西宮市）の佐藤暢哉教授（神経科学）らのグループが確認した。他者に対する「共感」の進化過程の解明にもつながるといい、ドイツの科学誌電子版に12日発表した。

プールに漬かったラット（右上）がいると、水のない部屋のラット（左下）がドアを開け、助けようとする行動が確認された（佐藤暢哉教授提供）

関学大 神経メカニズム解明期待

佐藤教授らは、一方がプール、もう一方は水のない部屋となった透明の箱を使って実験した。水のない方のラットは、プール側で仲間が溺れかけると、部屋をつなぐドアを開けて救助。水がない場合は助けることがなかった。ドアを開けるまでの時間は、溺れかけた経験があるラットの方が短く、つらい体験が共感を強くすることも分かった。

さらに、仲間を助けるドアとエサのある部屋に通じるドアの二つがある場合でも、エサを食べるより救助を優先する傾向があった。

見返りがないのに他者を助ける行動は、近年まで霊長類のみの特徴と考えられてきた。佐藤教授は「他者への共感は、社会生活を送る上で欠かせない能力。実験がしやすいラットで示されたことで、神経メカニズムの解明も期待できる」と話す。（武藤邦生）

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前【　　】

① 関西学院大学の佐藤暢哉教授らのグループが、ドイツの科学誌電子版に5月12日に発表した内容を、35字以内でまとめましょう。

② 佐藤教授らは、どんな実験を行ったのですか？35字以内でまとめましょう。

③ この記事を読んだ感想を書きましょう。

NIEワークシート／小学校高学年～高校